



令和元年度表彰

キラリ 輝く宮っこたち

本市では、市政に貢献してくれた人、文化やスポーツで活躍した人、宇都宮の名声を高めた人など、たくさんの宮っこを表彰しました。

今回は、令和元年度に表彰した皆さんを紹介합니다。

問秘書課☎(632) 2005

ID 1023309



◆ 市政功労表彰

地方自治の振興、社会福祉の増進、市民福祉への功績があった8個人・3団体（敬称略）を表彰しました。

- ▼ 福田智恵 ▼ 松田仁一 ▼ 櫻井博康
- ▼ 市自治会連合会 ▼ 宇都宮農業協同組合 ▼ 武藤英樹 ▼ 作新学院 ▼ 松元文子 ▼ 高久茂 ▼ 鎌倉三郎 他1個人。

◆ うつのみや市民賞

文化やスポーツ活動において、全国規模以上の大会などで最高位または、それに準じる成績を収めた39個人・10団体（敬称略）を表彰しました。

- 文化・その他 ▼ 宇都宮高等学校 校英語部 ▼ 林出英之 ▼ 荒山花帆 ▼ 高橋佑佳 ▼ 蓼沼歩夢 ▼ 石井小学校
- ▼ こと部 ▼ 星が丘中学校合唱部 ▼ 五月女心奈 ▼ 篠崎美蘭 ▼ 西前詩音 ▼ 増渕里夢 ▼ 小川千博 ▼ 小川理緒
- ▼ 宇都宮文星女子高等学校美術デザインコース。
- スポーツ ▼ 松下知之 ▼ 関野思衣 ▼ 陽南中学校水泳競技部 ▼ 高橋奈々 ▼ 榎本遼香 ▼ 落合有佳利 ▼ 齋藤一法 ▼ 谷田雅治 ▼ 鈴木一太 ▼ 本田尚也 ▼ 宇都宮ブレックスU15 ▼

◆ 市長特別賞

- 水井礼和 ▼ 内山豊 ▼ 増田成幸 ▼ 雨谷一樹 ▼ 作新学院高等学校女子硬式野球部 ▼ 小藤快勢 ▼ 久野愛莉 ▼ 渡辺鳳礼 ▼ 足立琉依奈 ▼ 松田知士 ▼ 高山蓮 ▼ 大久保世璃 ▼ 大久保琉唯 ▼ 作新学院高等学校ゲートボール部「作新クラブ」チーム ▼ 「作新学院」チーム ▼ 国体ゲートボール女子栃木県代表チーム ▼ 川又玲瑛 ▼ 岡澤恋 ▼ 中村陸人 ▼ 松浦佑希 ▼ 田崎拓也 ▼ 坂本環奈 ▼ 野原果林 他1個人。

◆ 市長特別賞

市長が特に顕彰することが適当と認められる功績を収めた1団体・2個人（敬称略）を表彰しました。

- ▼ UTSUNOMIYA BREX.EXE ▼ 薄井えりか ▼ 榑崎智亜。

＼まちづくり活動の表彰も/ 市民憲章表彰 ID 1007487

地道で優れたまちづくり活動を実践している2団体1個人（敬称略）を表彰しました。

- 最優秀市民憲章賞 ▼ 奈坪台自治会奈坪ゆうすい会。
- 市民憲章賞 ▼ 酒澤芳雄。 ▼ 横川エコの会。
- その他 詳しくは、市ホームページをご覧ください。

問みんなでまちづくり課☎(632) 2886

1川又玲瑛さん 2五月女心奈さん 3作新学院高等学校女子硬式野球部 4谷田雅治さん 5宇都宮文星女子高等学校美術デザインコース 6星が丘中学校合唱部 7松浦佑希さん 8篠崎美蘭さん

◎今月号のはつらつ宮っこは休載します。はつらつ宮っこでは、毎月、スポーツ・文化など、さまざまな分野で、輝いている市民を紹介しています。

初の市長特別賞受賞／

日本一のチームワークで世界へ挑戦
スリー・エックススリー・ドット・エグゼ プレミア
3 x 3 .EXE PREMIER 2019で総合優勝



2 ドゥサン・ポポビッチ選手 3 小林大祐選手
4 齊藤洋介選手 5 マルコ・ミラコヴィッチ選手



UTSUNOMIYA BREX .EXE
マルコ・ミラコヴィッチ選手 ドゥサン・ポポビッチ選手 齊藤洋介選手 小林大祐選手

©TOCHIGI BREX INC.

3 x 3 .EXE PREMIER 優勝
ワールドツアーへ

3 x 3のトップリーグ「3x3 .EXE PREMIER」。2019年は72チームが参戦し、UTSUNOMIYA BREX .EXEが見事に優勝。さらに、この優勝によって、FIBA（国際バスケットボール連盟）主催の3 x 3ワールドツアーにも出場しました。

昨シーズンを振り返って

チームの要である齊藤洋介選手は「絶対に忘れる事のないシーズンになりました。日本一を経験し、国際試合に何度も挑戦することができ、毎試合チームの成長を感じました」と手応えを語ります。

また、チームの市長特別賞受賞について、「名誉ある賞をいただき、大変光栄です。市の支援と市民の皆さんの応援のおかげです」と受賞時の気持ちを振り返ります。

チーム成長の秘訣

大躍進を続けたチームについて、「最大の強みは信頼関係。日々の練習を通じて、お互いのリスペクトとプロフェッショナルな信頼関係をつくることができました」と強さの秘訣を教えてくださいました。

「3x3のまち」うつのみやへ

「一荒山神社の麓で3 x 3の試合ができるのは、宇都宮だからこそだと感じますし、何より宇都宮市は他国の開催地と比較しても、ファンの応援が素晴らしいです。声援に答えられるよう、宇都宮で開催される大会で結果を残したいと思います」と、今後の意気込みを語ります。

また、大会前に子どもたちにプレーを教えた齊藤選手は、「若い年代の競技人口も増えてきました。3 x 3の素晴らしさを一人でも多くの人に伝えたい」と競技の普及にも意欲的です。

市民の皆さんへ一言

「いつも温かい声援に感謝しています。今、世界は大変な状況で、自分たちもいつ試合が始められるかわかりませんが、やるべき事は変わりません。しっかりと準備をして、世界でも活躍できるように、宇都宮の代表として皆さんに誇りを持ってもらえるように頑張ります」と、来たるべき戦いに備えて、日々研鑽に努めています。

3回目のうつのみや市民賞受賞／

納得するまで何度も挑戦。文部科学大臣賞を受賞



3



4

小六
自然の美
荒山花帆

2



1

1 全国学生書き初め展覧会、文部科学大臣賞の表彰状 2 文部科学大臣賞受賞作品 3 荒山さんが書写をする様子 4 対談時の荒山さん

全国学生書き初め展覧会で 文部科学大臣賞を受賞

全国学生書き初め展覧会は、幼児から大学生までの書道作品を硬筆部門と毛筆部門で募集し、審査する大会です。

荒山さんは小学6年生の時に、応募作品5963点の中から、小学校5・6年生毛筆の部で、最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました。「選ばれた時は、とても驚きました」と受賞時を振り返ります。

作品が完成するまで 100枚以上にチャレンジ

出品する文字が自由なこの大会で、荒山さんが選んだ文字は「自然の美」。「自然」も「美」も文字の中の等間隔の空間を表現することが難しく、なかなか納得できる作品ができませんでしたが、先生や書道の先輩である兄の助言を実践して、分からなくなったら、確認することを繰り返しました。「何度も挑戦して、ようやくできた作品は、一番良い作品になりました」と笑顔で語ります。

4歳から始めた書道

幼少の頃から兄に付き添って書

道教室を見に行っていた荒山さんは、「毛筆はとても不思議で、興味深かったです。それと墨汁の匂いが好きでした」と当時を振り返ります。今でも墨汁の匂いが心を落ち着かせるという荒山さん。書道に自然に親しんできた経緯を懐かしむように教えてくれました。

華麗な筆さばき

荒山さんが書道紙の向かいに端座すると、凛とした緊張感に包まれます。筆の穂先から硯の縁で余分な墨汁を落とし、墨の匂いを確かめるように細く呼吸を整えます。背筋を伸ばして筆を持ち上げると、迷うことなく筆を走らせ、見事な書を書き上げました(3の写真)。

書道の魅力について、「思い通りの文字が書き上がった時が、とても面白い」と溢れる笑顔で話します。

さらなる創作活動へ

「人の心を動かすような字を書けるように、これからも練習を重ねていきます」と意欲を示す荒山さんは、これからも、未来につながる言の葉を、自身が納得できるまで何度でも、真っ白な書道紙に書き上げていきます。

兄弟でうつのみや市民賞受賞 / たゆ 弛まぬ努力で積み重ねる栄光



WBCムエタイジュニアリーグU-15優勝時の5大久保琉唯さん7大久保世璃さん。キックの練習をする6大久保琉唯さん8大久保世璃さん。



星が丘中学校1年
大久保 世璃さん

宇都宮北高等学校1年
大久保 琉唯さん

WBCムエタイジュニアリーグ U-15第5回全国大会優勝

ジム内に、鈍い音が響きます。スピードとパワーを兼ね備えた二人の動きは俊敏でありながら重厚で、わずかに膝が動いたかと思うと瞬く間に、しなる足がサンドバッグに叩き込まれます。

中学生45kg未満のクラスで優勝した兄の大久保琉唯さんは、父の練習姿に憧れ、小学1年生からキックボクシングを始めました。中学生の時は3年連続、ムエタイジュニアリーグで優勝した実力者。「今回の大会の決勝戦が印象に残っています。練習していた、蹴りの後、素早く反対の足を蹴り出す二段蹴りという技で勝つことができ、うれしかったです」と普段の練習の成果を振り返ります。

また、小学生高学年31kg未満のクラスで優勝した弟の大久保世璃さんも、父と兄の影響を受け、年長からキックボクシングを始めました。「兄の姿を見ていると自分ももっと頑張れます。一度負けた相手にも、父や兄のアドバイスを聞いて、たくさん練習し、勝つことができました。努力の成果が実つて、うれしかったです」と笑顔です。

支えてくれる人たちへの感謝

リング上では闘志と迫力に満ち溢れた兄弟も、グローブを外せば、笑顔の似合う礼儀正しい高校生と中学生。「父は休日もコーチをしてくれます。母は毎日、自分たちが強くなれるために、おいしいご飯を作ってくれます。また、大会はいろいろな場所で開催されますが、会場への移動や応援など、ずっと両親が支えてくれました」と両親への感謝も忘れません。

未来の栄光を目指して

琉唯さんは、高校生の格闘技の祭典「K-1甲子園での優勝」、世璃さんは、「文武両道」と、それぞれがしっかりと目標を掲げています。

これまで、各種の格闘技大会で数多くのタイトルを獲得した百戦錬磨の二人ですが、今でも試合前は緊張すると言います。

昨日の自分を超えるため。輝く未来を掴むため。自らを奮い立たせながら、自分たちを支えてくれる人たちの声援を背に受け、二人はこれからも、目映いスポットライトが照らし出すリングに登っていきます。